

週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月7日(土)

《信仰とは“イエス様に対する愛”》

主の平和

司祭の目では教会の信者さんを見る時、どのような人が一番綺麗に美しく見えるでしょうか。学識がある人でしょうか。お金持ちの人でしょうか。自分は損になっても、優しい事ばかりする人が綺麗に見えるのでしょうか。「この人はすばらしい」という思いが生じる人とはどんな人でしょうか。どのような信者さんが一番綺麗に見えると思いますか。

一番綺麗に見える人は一言で言えば、“信仰がある人です。”信仰がある人は必ず顔に表れます。たまには涙を出しても暗い顔はしません。たまには怒っても暗いイメージはありません。では信仰がある人とはどういう人なのでしょう。もちろん信仰のある人はいつも祈る姿を見せてくれます。何かあっても憎しみを表す姿が全然見えない人です。

今日の福音(マタイ 17:14-20)でもイエス様は、「信仰があれば、あなたがたに出来ないことは何もない」とおっしゃったのですが、では、私達の信仰はどのような信仰でしょうか。

信仰とは今日の福音を考えてみますと、結局、“イエス様に対する愛”ではないでしょうか。自分が、信仰があるかどうかを量るための簡単な秤があります。「私はイエス様を愛しているかどうか。」もし、「私はイエス様を愛しています。」と言いながら暗い顔をして、いつも憎しみに囲まれているならば、それは完全に嘘つきです。

皆様、よく考えてみましょう。教会は、神学者達が2000年間保って来たわけではありません。金持ちによって教会が、今まで成り立ってきたわけでは絶対にありません。それは信仰のある人達によって保たれて来たのです。信仰があったからこそ、殉教の刀も受け入れたし、信仰があるからこそ、何が難しい事があっても良く識別して自分を譲ったり、犠牲をしたり、それを喜びとして受け入れて来たので、今、教会はこのように現存していると私は確信します。

皆様、信仰と言えば、色々と難しく考えてしまいます。「何だろう信仰って、何を信じるべきか」と。いいえ、そうではありません。“神様に対して愛を感じる事”です。イエス様に対して愛を感じたら、他のものは全部自然に出来ます。

皆様、今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。イエス様は、癒しを求めてやって来た子供を弟子達が治せなかった事を見て、もどかしいご自分の心を表しました。「私がいつまであなたがたと一緒にいられようか。いつまであれこれ言わなければならないのか。私はすぐに去ってしまうのに、ここに残るあなたがたはどうすればいいのか。」と心を痛めておっしゃいました。イエス様のその御心を量ってみましょう。

イエス様の死、復活、聖霊降臨そういう事によって教会の共同体が作られます。そこから聖霊の導

きによって信仰がなんであるかが分かります。そして何も恐れずに全ての難しさを全部乗り越えます。そのように生きて来た人々の子孫達が私達です。私達は信仰の生活を自分勝手に解釈して、あまりにも甘く考えているのではないかと振り返ってみましょう。

信仰とは今日の福音の流れとして、もう一度説明しますと“イエス様に対しての愛”です。イエス様をどのように慕っているか、そういう心を考えてみたらいいと思います。何かがある時、良い事でも悪い事でも、その時一番先に浮かんでくる対象が、イエス様であったら、皆様は信仰がある方でしょう。しかし、何かがあった時に、他のものが先に浮かんで来る場合はまだまだです。

皆様、本当に基本的な事です。子供達が怖い時、一番初めに思い出すのは誰の事でしょうか。親でしょう。私達は「父よ、父よ」言いながらも、「お父さん、お父さん」と言いながらも、何かがあった時、自分の拳だけ浮かんで来ると、これは完全にハズレです。

皆様にもう一度申し上げます。私達は信仰者です。そうしたら、信仰者らしい姿を見せなければなりません。信仰者になるために何よりも「イエス様を愛して下さい。」イエス様を愛することは結果的に「自分がどのくらいイエス様に愛されているか」が分かる事です。そういう気持で信仰の生活を致しましょう。もしちょっと外れている所があったら綺麗に悔い改めましょう。それが必要です。悔い改めを恥と同じような概念で解釈する人がいるみたいです。“悔い改めは恵みです。”本当に恵みです。

「しなければならぬ」と思っても出来ないのが悔い改めです。しかし、悔い改めを求める人には、必ずその恵みを下さるのがイエス様の御心である事も、今日の福音として考えてみましょう。

自分を捨てて下さい。自分の頭を信じないで下さい。自分のプライドも捨てて下さい。私達は何もないものです。

ありがとうございました。